

令和4 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年3月28日

法人名

園名

学校法人仏光学園

認定こども園ぶっこう幼稚園

まとめ

全体平均

3.43

第2章第2節 乳児期の園児の保育	子どもの感情を丁寧に受け止め、信頼関係を築いて来た。また一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、基本的に生活習慣が身につけるよう務めた。環境設定に関しては、それぞれの発達に応じた玩具を手作りし、遊びの中で体を動かし、身体の発達を促すようにと考えている。食事面では『食べることを楽しめる』よう進めてくことが課題である。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	保育教諭が仲立ちとなり、異年齢の子ども同士が関わったり、子ども同士が言葉でやり取りが出来るよう心がけている。コーナー保育を取り入れているが、子どもたちの月齢に応じた玩具の種類・量や並べ方、パーテーションの位置など、職員一人ひとりが適切な設定を意識して作ることが今後の課題である。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子どもたちに対し丁寧に関わったり、子どもたちが安心して過ごせるように、それぞれの職員が意識して接している。行事へ向けての活動が主なため、取り組めることが学年でバラつきがあったり、達成出来ない項目がある。一年を通してどの項目の何を達成させるのか、その為にどう保育をしていくか、保育内容を園全体もしくは学年で話し合い改めて考える必要がある。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	どの職員も子ども一人ひとりを理解し、子どもたちが園で過ごしやすいう、健やかに成長するよう心がけている。乳児クラスでは職員間の情報共有が適切に行われ協力体制が出来ているが、幼児クラスではあまり密に行われておらず、職員全体が一つの認定こども園であるという意識を持ちながらの保育が難しい。
第3章 健康及び安全	清掃や消毒など衛生面、遊具の点検や避難訓練などの安全面には十分留意しているが、保健計画・安全計画などの計画内容については周知されているとは言い難い。またコロナ禍の影響もあり、園内だけの活動で終わっており、保護者や地域、給食委託会社との連携はあまりなされていない。
第4章 子育ての支援	保護者とのコミュニケーションを大切に、関係性を築くよう努めた。また参観や懇談がコロナ禍以前と変わりなく行えるようになり、保護者同士の交流も見られた。園庭開放の日数を増やしたり、親子プログラムを実施したりすることで子育て世代の集まる場となるよう試みているが、依然として参加者が少ないことが課題である。
第5章 職員の資質向上	キャリアアップ研修を繰り返し受ける中で、職員一人ひとりの知識が増え、考察が深まり、資質向上に繋がって来ていると思われるが、報告書の作成のみで止まっていることが多い。知識を定着させるために研修内容を繰り返し読んだり他人に伝えることが必要である。職員会議の内容を見直し、ケース会議や研修内容を発表する時間を作り、情報共有・知識の定着が図れたらと考えている。
総合	『幼保連携型認定こども園教育保育要領』に基づいた自己評価は二度めとなり、職員の取り組む姿勢が前年より真剣なものになったように感じる。どの職員も子どもや保護者と密にコミュニケーションを取り信頼関係を築くよう努め、子ども一人ひとりを理解し健やかに成長していけるような環境を整えることを心がけている。しかしその一方で、前年でも課題となっていたことであるが、保育教諭同士の連携や情報共有は未だ十分ではない。職員会議や終礼の内容を見直すなど工夫することで、全体で情報共有する時間を作ることが必要である。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	3.80
「3歳未満児保育」	32	3.63
「3歳以上児保育」	53	3.19
「教育保育の配慮事項」	15	3.73
「健康・安全」	29	3.24
「子育ての支援」	16	3.56
「職員の資質向上」	9	3.44
計	169	3.43

データグラフ

